一　データ信号の構成

1　多重副搬送波を使用するデータ信号の伝送は、データパケットにより行うものとし、その構成は別図第一号のとおりとする。

2　垂直帰線消去期間を使用するデータ信号の伝送は、データラインにより行うものとし、その構成は別図第二号のとおりとする。

3　音声信号副搬送波を使用するデータ信号の伝送は、パケットにより行うものとし、その構成は別図第三号のとおりとする。

4　データグループは、一の論理チャネルで伝送される一又は連続した複数のデータブロックの一群のデータであり、その種別はＤＧ構成一及びＤＧ構成二とし、その構成は別図第四号のとおりとする。

5　データグループデータを用いて伝送される信号は、ファクシミリ信号、静止画信号、文字信号、テレソフトウェア信号、時刻信号及び複合データ信号とし、各信号の伝送の制御は、別図第五号に示す伝送制御データにより行うものとする。

6　各信号の構成等は、次のとおりとする。

(1)　ファクシミリ信号

ファクシミリ信号の構成及び送出手順は、別表第一号のとおりとする。

(2)　静止画信号

静止画信号の構成及び送出手順は、別表第二号のとおりとする。

(3)　文字信号

文字信号の構成及び送出手順は、別表第三号のとおりとする。

(4)　テレソフトウェア信号

テレソフトウェア信号の構成及び送出手順は、別表第四号のとおりとする。

(5)　時刻信号

時刻信号の構成及び送出手順は、別表第五号のとおりとする。

(6)　複合データ信号

複合データ信号の構成及び送出手順は、別表第六号のとおりとする。

二　スクランブルを行う範囲及びスクランブルの制御

1　スクランブルを行う範囲

(1)　多重副搬送波を使用する伝送方式の場合

スクランブルを行う範囲は、データパケットのヘッダ部、データ部の先頭より十二ビットまでの領域及び冗長ビット以外の任意の部分とする。ただし、データパケットの冗長ビットにおけるチェック符号は、スクランブル処理を行った信号に対して求めるものとする。

(2)　垂直帰線消去期間を使用する伝送方式の場合

スクランブルを行う範囲は、データラインの同期部、データパケットの先頭より十二ビットまでの領域及び冗長ビット以外の任意の部分とする。ただし、データパケットの冗長ビットにおけるチェック符号は、スクランブル処理を行った信号に対して求めるものとする。

(3)　音声信号副搬送波を使用する伝送方式の場合

スクランブルを行う範囲は、データパケット部のうちパケットプリフィックスのデータグループ制御を除く各データ及び冗長ビット以外の任意の部分とする。ただし、データパケット部の冗長ビットにおけるチェック符号は、スクランブル処理を行った信号に対して求めるものとする。

2　スクランブルの制御

スクランブルの制御は、別表第七号のとおりとする。ただし、番組のデータにスクランブルを行う場合は、適用しない。

別図第一号　データパケットの構成

注1　論理チャネル識別１（ＬＣＩ１）と論理チャネル識別２（ＬＣＩ２）を組み合わせてデータ多重放送の信号を伝送する論理チャネルを識別し、ＬＣＩ１が同一である各論理チャネルのパケット構成は共通とする。

ただし、ＬＣＩ１が配列順に“10000”のときはテレビジョン有料方式の関連情報パケット、“00000”のときは受信処理において無視することを示すダミーパケットとする。

2　スクランブル制御（ＳＣＣ）は、別表第七号（スクランブル制御の構成）のとおりとする。

3　連続性指標（ＣＩ）は、１つの論理チャネルにおけるパケットデータの連続性を示すための番号であり、ｂ25を最下位ビット、ｂ28を最上位ビットとする４ビットの２進値で「０」～「15」を順次繰り返す。データグループ(一つの論理チャネルで伝送される一つ又は連続した複数のデータブロックの一群のデータ）の先頭で前のパケットデータのＣＩの値にかかわらず「０」とすることができる。

4　データグループ制御（ＤＴＣ）は、データグループ先頭フラグ（ＴＤＦ）及び、データグループ終端フラグ（ＥＤＦ）の各１ビットから成り、パケットプリフィックスのｂ29をＴＤＦ、ｂ30をＥＤＦとする。

(1)　ＴＤＦは、データグループの先頭のパケットデータを示すものであり、先頭のデータパケットのときに“1”とし、その他のパケットデータのときに“0”とする。

(2)　ＥＤＦは、データグループの終端のパケットデータを示すものであり、終端のデータパケットのときに“1”とし、その他のパケットデータのときに“0”とする。

5　データブロックの176ビットは、配列順にｂ31～ｂ206とする。８ビットを単位として情報データを表す場合、データブロックの22バイトは、ＤＢ１～ＤＢ22とする。データパケットにおける配列はＤＢ１のｂ１～ｂ８、ＤＢ２のｂ１～ｂ８、・・・ＤＢ22のｂ１～ｂ８の順とする。

6　冗長ビットは、次のとおりとする。

ヘッダ部は（16，5）ＢＣＨ符号、データ部は（272，190）短縮化差集合巡回符号（b_{17}～b_{206}までの値を順次、多項式$b_{17}X^{271}+b_{18}X^{270}+\cdots+b_{206}X^{82}$の各項の係数値とし、この多項式を生成多項式$X^{82}+X^{77}+X^{76}+X^{71}+X^{67}+X^{66}+X^{56}+X^{52}+X^{48}+X^{40}+X^{36}+X^{34}+X^{24}+X^{23}+X^{18}+X^{10}+X^{4}+1$で除した剰余の多項式$r_{81}X^{81}+r_{80}X^{80}+\cdots+r_{0}X^{0}$の各項の係数値を冗長ビットとし、順次$b_{207}$～$b_{288}$までの値とする。）により、誤り訂正を行うものとする。

7　別図中、“　”で示した数は２進値、「　」で示した数は10進値とする。以下同じ。